

工大|広報

No.260

Winter 2011

2011年1月20日発行
(年4回発行)



卒業研修に取り組む学生
研究に取り組む大学院生

学校法人東北工業大学
50年史刊行

表紙写真：環境情報工学科2年生の太陽光・風力ハイブリッド発電実験風景

卒業研修に取り組む学生。研究に

工学部 情報通信工学科

4年間のまとめ

いしかわ しげかず
石川 重和
情報通信工学科 4年



コンピュータネットワークの社会インフラとしての重要性は日増しに高まり、セキュリティ管理技術が重要になっています。

その中で私はHoneypotによる不正アクセス傾向の分析に関する研修を進めています。Honeypotとはインターネット上のおとりシステムで、意図的に脆弱性を設けたサーバを用いて、実際の不正アクセスの情報を集めることができるシステムです。現在は得られた情報を解析しています。情報が膨大なので大変ですが、不正アクセスの傾向を知ることによりやりがいを感じています。

学生生活も残りわずかですが、4年間の集大成が納得のできる形でまとめられるよう、今後も取り組みます。



工学部 建設システム工学科

安全で快適な 海岸環境のために

ちば ゆうすけ
千葉 裕介
建設システム工学科 4年



私が所属する高橋敏彦研究室では、主に海岸の防災、利用および環境についての研究に取り組んでいます。その中で、私は防災に関するテーマで、直立および傾斜護岸の越波防止に関する研究を行っています。内容は、既設の護岸に簡便に設置でき、越波防止の効果が大きい対策工法を設計し、その効果の検討を実験を通して調べています。現在、既往の研究と比較検討を行っているところです。

自分の考えを基に研究を進めていくので、新たな傾向などを発見した時は研究意欲をかき立てられますし、毎日が新鮮で充実しています。研究室の仲間は明るく気さくで、ゼミでは活発に意見交換を行っており、より良い成果が得られるよう日々邁進しています。

工学部 環境情報工学科

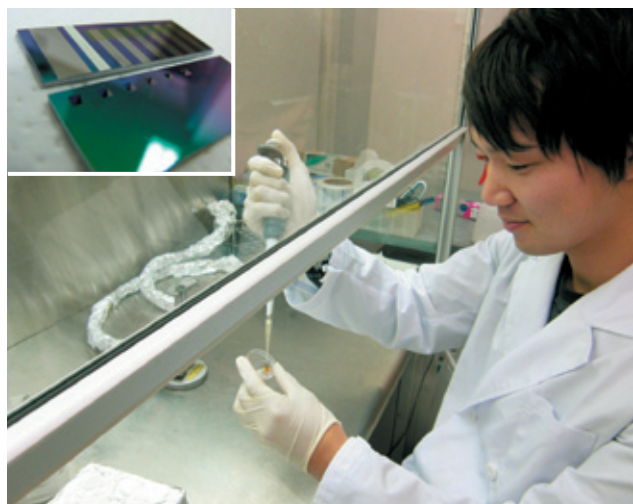
電気化学デバイスの開発

きりう はるき
桐生 春樹
環境情報工学科 4年



私は、免疫細胞の機能を計測するための電気化学デバイスの設計を行っています。これは、多種多様な化学物質が人体に与える影響について、細胞レベルで検討しようとする試みです。細胞の直径は約20マイクロメートルと小さいため、通常の電気化学酸素センサーよりも非常に小さいマイクロメートルサイズやナノメートルサイズの電極を開発しています。

葛西重信研究室では、9月頃から山形県工業技術センターMEMS研究室、東北大学と共同で電気化学デバイスの開発を始め、自分の設計したデバイスの第1弾が完成しました。このような自分の考えたデバイスができたことはとても面白く、さらにこの後の免疫細胞を導入して計測してみるのが楽しみです。



卒業研修発表会 日程

[八木山キャンパス]

- 知能エレクトロニクス学科 — 2月28日(月)
- 情報通信工学科 — 2月24日(木)
- 建築学科 — 2月15日(火)・16日(水)

- 建設システム工学科 — 2月17日(木)

- 環境情報工学科 — 2月16日(水)

[長町キャンパス]

- デザイン工学科 — 2月14日(月)～18日(金)

取組む大学院生。

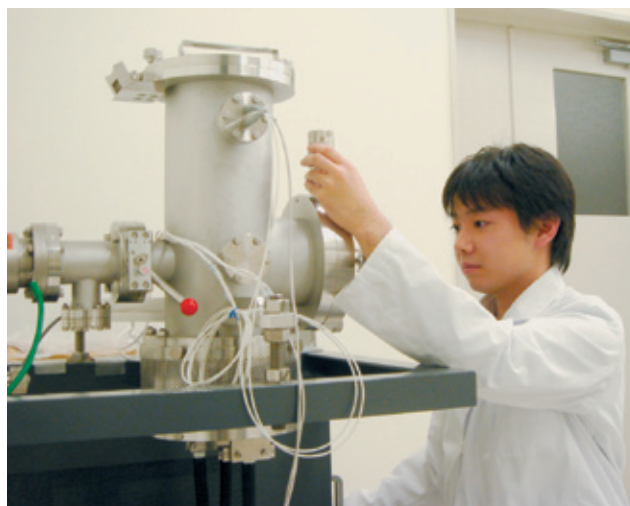
大学院 電子工学専攻

検出器製作の 最終装置完成を夢見て

たなか ともふ
田中 知将
電子工学専攻
電子物理工学部門
博士(前期)課程 2年



私の研究は半導体を用いた放射線検出器の作製で、核医療機器への応用開発を行っています。現在、日本人の死亡原因の上位を占める癌の発見に威力を見せるPET(Positron Emission Tomography:陽電子放射断層撮影)装置に応用されるものです。これが完成すれば、PETを小型にでき、安価で容易に癌検診を受けることができるようになります。しかし、この検出器に用いる性能の良い半導体材料の結晶選別と育成方法が難しく、昼夜関係なくその結晶作りに追われています。その結晶ができ上がり検出器を製作して特性を調べるとき、その苦勞が報われ、なにものにもまして充実した時間となります。最終の装置完成を夢見て、本学での残り少ない時間を頑張りたいと思います。



大学院 建築学専攻

オープンな建築・都市を目指して

たけだ ゆきひろ
武田 千博
建築学専攻
建築史・意匠部門
博士(前期)課程 2年



私は修士設計で「複合的劇場施設の空間構成に関する研究」に取り組んでいます。劇場は、古くから人間文化や都市生活に関わる建築物です。最近は街路から見えないことに着目し、仙台市内の劇場やその導入空間であるホワイエを、都市広場としてまちに「開く」ことで、街ににぎわいをもたらす可能性を探っています。私は修士一年より建築事務所でのインターンシップを経験、具体的な計画の面白さを体験しました。修士設計の取り組みに際しても、設計開始時に8カ国22の劇場を実際に訪問することから始めました。建築学の修士設計は、今までの体験・アイデア・知識すべてのまとめであり、完成に向けて模型や図面を使った自分との格闘を続けていきます。



大学院 デザイン工学専攻

コミュニティを支援する アプリケーションの開発

すね ゆうき
諏訪 悠紀
デザイン工学専攻
産業デザイン計画部門
博士(前期)課程 2年



私が所属している両角清隆研究室では、人々の活動を支援する道具(Webサイトやアプリケーションなど)の研究・開発を行っています。私は「コミュニティの継続的な活性化を支援するWebアプリケーションの開発」というテーマで研究を進めています。

コミュニティ活動では参加者がさまざまな意見を出し合うことが大切です。人によっては「発言したら会話の流れを止めてしまうかも」「この意見は必要ないかも」などと感じ、話し合いの中で発言ができない場面があると思います。

そこで私は参加者が「敷居」を感じずに情報発信ができるように、アプリケーション上でどのように支援すれば良いか、日々研究しています。



卒業研修学外発表 日程

[東北工業大学一番町ロビー 1階]

■環境情報工学科 ——— 2月18日(金)～2月23日(水)

[せんだいメディアテーク 5階]

■建築学科 ——— 2月25日(金)～3月2日(水)

■デザイン工学科 ——— 2月25日(金)～3月2日(水)

大学院・専攻発表会 日程

[八木山キャンパス]

■電子工学専攻 ——— 2月25日(金)

■通信工学専攻 ——— 2月28日(月)

■建築学専攻 ——— 2月22日(火)

■土 木 工 学 専 攻 ——— 2月17日(木)

■環境情報工学専攻 ——— 2月24日(木)

[長町キャンパス]

■デザイン工学専攻 ——— 2月22日(火)

海外での研究発表



国際会議での 研究発表、共同研究

うちだ ひるなが
内田 裕久

知能エレクトロニクス学科 教授



この10年くらい、年間2～3回のペースで国際会議に参加してきました。幸いにも平成22年度から2年間の予定で日本学術振興会の二国間共同研究(日本・ロシア)に採択され、共同研究のための経費をいただくことができました。今年は、磁性ガーネットと金ナノ粒子との複合膜では、表面プラズモン共鳴によって磁気光学効果(光の偏光面の回転)を20倍も大きくできるとの研究成果を国際会議(ペルー)で口頭発表しました。さらに、モスクワ大学の共同研究者との打合せ(ロシア)を行い、磁気光学効果についての研究会(スペイン)に参加してきました。



写真上は、国際会議の会場の風景で、著者が口頭発表の後でポスター発表をくつろいで見ているところ。

写真右は、夕食時にスペインのバル(BAR)へ共同研究者らに行ったときのもの。



国際会議「E-MRS 2010 Fall Meeting」に参加して

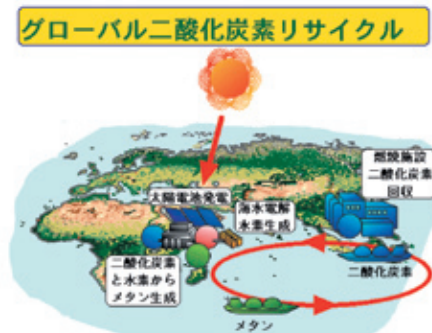
かとう ぜんた
加藤 善大

環境情報工学科 准教授



9月13日(月)～17日(金)に、ポーランドのワルシャワ工科大学で開催されたヨーロッパ材料学会(E-MRS)に、東北工業大学橋本功二名誉教授、共同研究を行っているアタカ大機(株)の泉屋宏一博士とともに参加しました。この国際会議では、太陽光発電、原子力発電、水素吸蔵などに用いられる材料の最新の成果が報告されました。

私たちは、『グローバル二酸化炭素リサイクル』の実現に欠かせない要素材料の酸素発生電極およびメタン化触媒に関する2件の講演を行いました。



留学体験記

台湾・中原大学への 留学を終えて

みと たかふみ
水戸 貴文

建築学科 4年



10月2日から約2か月間、台湾の中原大学に留学をするチャンスをいただきました。留学中は、台湾の学生と共に卒業設計の作業を行いました。台湾での生活は、毎日が初体験、新発見の連続で、台湾独自の生活、食べ物、気候、文化、言語、建築など「日本と違う」という感覚がとても新鮮でした。台湾の学生と設計アイデアをディスカッションし、いい刺激を受けながら作業することができました。夜遅くまで台湾の学生と作業し交流できたこと、皆で行った小旅行などはいいい思い出です。台湾留学を通して、今まで以上に視野が広



中間発表会の様子



中原大学の友人と

がり、自分自身を成長させることができました。また国境を越えて素晴らしい友人たちに出会えたことを幸せに感じています。今後も多くの学生にこのような経験をしてほしいと思っています。最後に、台湾での留学生活ブログ(<http://073438.at.webry.info/>)もご覧ください。

泰日工業大学と初の「国際ジョイントセミナー2010」 「モノづくり・ヒトづくり」テーマに開催



泰日工業大学から13名来日 発表はすべて英語



ふじた とよみ
藤田 豊己
 知能エレクトロニクス学科 准教授
 国際交流委員会幹事

本学はタイのバンコクにある泰日工業大学と国際交流協定を結んでおり、その学術交流事業として、10月21日に本学にて「グローバル社会におけるモノづくり・ヒトづくり」のテーマでジョイントセミナーを開催しました。泰日工業大学から教職員および学生13名が来仙し、全体の参加者は計150名ほどになりました。両大学の教員による研究講演とともに、学生の発表も行われ、本学からはライフデザイン学部経営コミュニケーション学科の大槻くるみさん、大堀耕太君、鈴木朋恵さん、宮本夕貴さんが「相互理解のために」のテーマで発表を行いました。英語での発表のため大変であったと思いますが、堂々とした発表でした。聴講した学生たちも大いに刺激を受けたようです。

本学は他の大学とも協定を結んでおり、今後さらに国際交流を推進していきたいと考えています。国際的な視野を持つことは今後ますます大事になります。学生の皆さんは是非このような機会に積極的に参加してもらいたいと願っています。

異文化経験や 自国文化を紹介



みうら あやこ
三浦 綾子
 建築学科 4年

泰日工業大学との国際ジョイントセミナーの学生セッションでは、相互理解を目的として、両大学学生が異文化における経験や自国の文化の紹介、現在の研究についてなどの発表をしました。発表は英語を主とするものでしたが、タイの学生が日本語でタイの見どころを紹介する場面もあり、親しみやすい雰囲気の中で行われました。私は学部2年の時に泰日工業大学を訪れる機会をいただき、その際タイの学生の皆さんと親交を深め、マイペンライ(タイ語で気楽に、大丈夫)精神に魅力を感じたり、驚いたりすることがありました。今回はタイの学生が直接日本の文化を体験し、より互いの親交が深まるのではないかと思います。

交流して、共有して、 繋がっていく文化



おおつき
大槻 くるみ
 経営コミュニケーション学科 2年

私は今春、泰日工業大学からの留学生のチューターをしました。そのため、このセミナーを通して再び大学間の交流が図れればと思い参加しました。私の発表内容は自身の言語学習と多文化コミュニケーションの経験についてです。発表後にタイの大学の先生が話しに来てくださり、先生自身の留学経験を交えた意見交換をしました。お互いにアジア人として欧米文化に身を置いて苦い経験があったため、異文化受容についての話で盛り上がりました。この時、セミナーが本当に充実したものになったと実感しました。今回のセミナーがさらなる相互理解と次の交流の機会に繋がっていくことを願っています。

泰日工業大学との
 ジョイントセミナーの学生発表者

大槻 くるみ (経営コミュニケーション学科 2年)
 大堀 耕太 (経営コミュニケーション学科 3年)
 鈴木 朋恵 (経営コミュニケーション学科 3年)
 宮本 夕貴 (経営コミュニケーション学科 3年)
 司会進行役
 三浦 綾子 (建築学科 4年)

就職状況と3年生へのアドバイス

新年を迎えましたが、就職状況は相変わらず厳しいものがあり、今後もこの状況が続くものと予想されます。3年生諸君にとってはこれから本格的な就職活動時期が始まるようになっていますが、早めの就職活動準備が成功の鍵を握るといっても過言ではありません。自己分析、他己分析(人に聞く)、企業研究などを今のうちからしっかりと行って適職に就けるよう備えてください。以下は各学科就職担当教員からの4年生の就職状況と3年生へのアドバイスです。

ちば のりゆき
千葉 則行 就職部長／建設システム工学科 准教授

知能エレクトロニクス学科

きめ細かな指導

おおば かつひこ
大羽 克彦
知能エレクトロニクス学科 教授



現在、全学を挙げての就職支援と、学科の就職委員会を中心とした教員のサポートで、就職内定率は昨年度に比べて8ポイント程改善されています。しかし、過酷な就職状況の中、内定率を高めるためには、さらなる努力が必要とされます。3年生は、今年度から後期に研究室に配属されることになり、さらにきめ細かで継続的な指導が可能となりました。

建築学科

目標を定め、 早めの準備を

めまの なつお
沼野 夏生
建築学科 教授



昨年に比べ求人会社数、求人数とも大幅にダウンし、内定率は約20ポイント低下しています。次年度はさらに厳しい状況も予想されますが、まずは早期に自分の興味や適性を見つめ直し、狙いを定めて着実に準備をしていくことです。大学側の多様なサポートを活用し、公務員や大学院進学も視野に入れながら、業界や企業をしっかり研究しましょう。

デザイン工学科

大学で何を学び何ができ、 将来何をしたいのか 整理しよう!

はらだ はじめ
原田 一
デザイン工学科 教授



デザイン工学科の就職状況は昨年度同時期とほぼ同様で、採用を控えている企業が多いため、苦戦していますが、しっかり就職対策をして、努力している学生は内定を得ています。3年生諸君は、大学や学科で実施している進路支援講座などを積極的に利用して、大学で学んだこと、何が得意で何が苦手なのか、どんな仕事をしたいのか整理しておくことが大切です。

情報通信工学科

広い視野を持って 就職活動を

のぐち かずひろ
野口 一博
情報通信工学科 教授



本年度の学科の就職状況は、昨年同様非常に厳しい状態で推移しており、特にIT関連企業への就職が難しくなっています。来年度も厳しい就職環境の改善は見込まれず、3年生も厳しい就職戦線にさらされるものと予想されます。こうした中で、3年生には特定の企業、業種にこだわらず、広い視野を持って志望企業を選択して欲しいと思います。

建設システム工学科

「強い希望」を まず持とう

こいで ひでお
小出 英夫
建設システム工学科 教授



就職に対し「強い希望」を持つ学生は非常に好調です。多くの先輩が建設系企業や建設関連部門を持つ企業(県庁・市役所なども含む)への就職を希望し、夢を実現しています。学科推薦による採用も未だ多く存在します。恋愛成成は「相手から」の場合もありますが、就職は言葉と態度で自分から気持ちを伝えるしかありません。「強い希望」がそれを後押しします。

環境情報工学科

自己分析・ 企業研究をしっかりと

あなざわ まさひろ
穴澤 正宏
環境情報工学科 准教授



全国的な就職難のため環境情報工学科の就職内定状況は昨年度よりやや悪くなっています。タイミングを逃さず就職活動を進めるよう、3年生には自己分析と企業研究をしっかりとやって希望業種・職種を早めに定めてほしいと思います。また、たくさん会社説明会に参加して会社の方から直接話を聞くことで働くことのイメージが明確になるはずです。

「社会の扉」を開けるには

さわだ やすじ
沢田 康次 学長



社会への入り口を押しあけるには、その門番の「あなたはどんな人ですか?」「それはあなたのどんな経験からそう思っているのですか?」「大学では何を学びましたか?」「社会の門を開けてあげたら、それを使って、どんなことをしたいですか?」という問いに答えないと開けてくれません。一年生の時から友だち同士で繰り返しこの質問に答えられるように話し合ひましょう。友だちがまだ見つからない人は、あなたの進路指導員の先生と同じ問答をしてみましょう。

クリエイティブデザイン学科

まずはポートフォリオを

しのはら りょうた
篠原 良太

クリエイティブデザイン学科 講師



クリエイティブデザイン学科1期生として、初めての就職活動を行う時期になりました。どのような業種を目指すにしても、何を学んできたかを伝えるポートフォリオは重要です。企業訪問先に残すことができる「名刺+ミニブック形式のポートフォリオ」なども制作しておくと思います。さまざまな分野で「デザイン」は求められています。分野を狭めずに、幅広い視点で学んだ事をいかせる業種を考えてみましょう。

安全安心生活デザイン学科

第1期生として、自己PRを明確・簡潔に行えるように準備しましょう

こやま ゆうじ
小山 祐司

安全安心生活デザイン学科 准教授



皆さんは、安全安心生活デザイン学科学生で、初めて就職活動を行う第1期生です。自分が、この新しい学科で何を学び、そして何ができるようになったかを、エントリーシート作成や面談試験の時、簡明に説明できるように、十分な準備が必要です。実験や実習の内容を中心に、ポートフォリオ(作品集・活動のまとめ)の整理・作成をぜひ行ってください。事前の準備が成功の鍵です。

経営コミュニケーション学科

就職活動を通して自分探しを

かない たつろう
金井 辰郎

経営コミュニケーション学科 教授



経営コミュニケーション学科は1期生が3年生となり、この10月より就職活動を開始しました。厳しい就職状況ではありますが、学科としてSPI試験・面接・履歴書対策の指導を行うなど、就職活動を全面的にバックアップする体制を整えており、学生もそれに応えてよく努力しています。就職活動とはまさに自分探しの作業であることを胸に、後悔しない活動をしてほしいと願っています。

キャリアサポートプログラム

本学では、早い時期から学生一人ひとりが卒業後のキャリアについて考え、希望と自信を持って就職活動に臨むことができるように1年次から始まる支援プログラムを行っております。主な取り組みを紹介します。

就職ガイダンス

入学時から、大学での学びの意義・職業意識の醸成を促します。

1年次

適性検査①

自分自身の性格や興味を理解し、将来の目標設定などを自覚します。

就職ガイダンス

自分の適性・能力に応じた進路を考えることを促します。

2年次

適性検査②

これまでの学生生活を振り返り、改善すべき点や進路目標を考えます。

就職ガイダンス

本格的な就職活動のスタートにあたり、具体的な就職活動の方法について指導します。

適性検査③

職業についての理解を深め、自己PRや企業研究のきっかけづくりに役立つ検査を実施します。

就職講習会

就職活動を進める心構え・マナーや、業界・企業研究、自己分析、エントリーシート、面接などについて解説・説明します。

3年次

就職業界・企業研究会

企業から講師を招き、就職活動を始めるに当たっての心構えやそれぞれの業界・企業が求める人材像などについてお話しいただく研究会を実施します。

就職模擬面接

外部講師を招き、面接の実技指導を行うとともに、履歴書記入のポイントについて指導します。

SPI・エントリーシート対策講座

多くの企業の採用試験で利用されているSPI試験対策講座と、書類選考で重要なエントリーシート対策講座を併せて実施します。

合同企業説明会

本学主催による合同企業説明会を開催します。

個別就職指導

キャリアサポート課、学科の就職委員および研修担当教員が連携し、個々に応じた就職相談・指導を実施します。

4年次

合同企業説明会・模擬面接

4年次生に対しても学内で合同企業説明会を開催します。また、模擬面接を実施して実技指導を行います。

インターンシップ

主に夏季休業中を利用して企業での就業体験を通して自己の職業適性など、職業選択について考える機会とします。

就職試験対策講座(2・3年生対象)

夏季・春季休業中を利用して行う民間就職試験(専門・常識・適性)、公務員試験対策の集中講座を開催します。

就職活動なんでも相談(3・4年生対象)

外部の専門カウンセラーによるキャリアアドバイザーを配置して、就職活動相談を実施します。

情報通信工学科

最先端の設備を備えた
2つのラボラトリー



つのだ ひろのり
角田 裕
情報通信工学科 講師

本学科の特徴は2つのラボを活用した情報通信と情報処理の高度な実践教育にあります。ITシステムラボでは情報通信の最先端を担うさまざまな機器を駆使し、光ファイバの基本原則からインターネットのセキュリティ問題まで幅広く学ぶことができます。今年度新設したITメディアラボには120インチ立体スクリーンシステムや衛星画像解析装置、声紋描画装置などが設置され、図形・画像・音声の高度な情報処理技術を深く学べる環境になっています。学生は実験や卒業研修を通して、これらのラボを活用し、最先端の設備に触れながら即戦力となる知識と技術を習得しています。

建設システム工学科

「社会」を多角的に考える



きくち あきら
菊池 輝
建設システム工学科 准教授

CE進路セミナーは、1年生前期から3年生前期にかけて開講しているキャリア教育支援科目です。入学直後は大学と社会との違いを認識するところから始まり、社会人としての良識を自発的に育むように指導します。また公共性や社会に貢献する姿勢を養い、2年生になると、社会の中での自分の役割を考えながら、自分の将来をイメージさせます。3年生は就職試験の演習を通じて進路について考えさせ、就職に対する心構えを身につさせます。このような段階的なキャリア教育への取り組みが、本学科の就職率の高さに結びついていると思います。

クリエイティブデザイン学科

「いつでも展覧会」
作品展示スペースの活用



うめだ ひろき
梅田 弘樹
クリエイティブデザイン学科 准教授

長町キャンパス1号館の吹き抜け空間を利用して、学生たちが提案し制作した作品のモデルやプレゼンテーションボードを展示しています。具体的なデザインを実践する実習科目では、理論や知識の習得に加え、実際の制作を通してアイデアの質を高めていくことが重要です。展示スペースでは、先輩や他コースの学生の作品を見ることによって、課題に求められる完成度の基準が自然に身につけられます。内容の入れ替えはありますが、作品は基本的に通年展示されており、学生たちが日常的にデザインにふれる場になっています。学生のモチベーションの向上はもちろん、創造的な雰囲気作りのためにも一役買っています。

経営コミュニケーション学科

発声、即興劇、ヨガで
非言語表現を実践



さるわたり まなぶ
猿渡 学
経営コミュニケーション学科 准教授

言葉によらない非言語的コミュニケーションを、「ノンバーバルコミュニケーション」といい、コミュニケーション研究にとっては重要な分野です。本学科ではコミュニケーションコースの必修科目の「身体表現研究」や「映像表現」などがそれに該当します。特に「身体表現研究」では身体を使った表現とは何かを、発声練習やエチュード(即興劇)、心身の統一と体幹部の強化を図るためのヨガなどから学んでいます。就職活動を前に、緊張した学生の心身をほぐすとともに、姿勢の矯正などにもヨガや発声練習は有効です。実践の中から何かを学んでほしいと思っています。

創設時の精神や理念、 半世紀の活動 次代に引き継ぐ



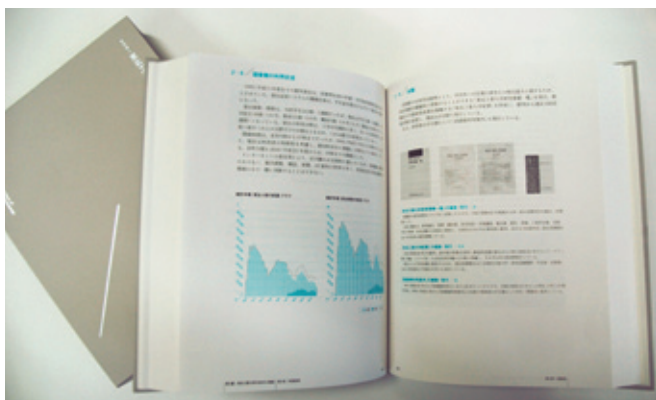
こんの ひろし
今野 弘
建設システム工学科 教授
副学長 50年史編集委員長

本学の創立記念日は10月19日で、法人設立に向けた発起人会でその設立が可決された日です。1960(昭和35)年のことですので、2010(平成22)年で50年を迎えました。

その記念事業として創立記念日に「東北工業大学50年史」が刊行されました。東北工業大学高校は1961(昭和36)年4月に開校、東北工業大学は1964(昭和39)年4月に開学されましたが、法人、高校、大学の総力で、それぞれの現状と評価そして将来を展望しています。創設時の精神や理念、半世紀の活動とそれらに関わった多くの人々、巣立った生徒や学生などが鮮明に蘇る「50年史」に仕上がりました。

『五十にして天命を知る』(論語)

本学に与えられた天命を「東北工業大学50年史」をひもといて確認し、それを次代に引き継ぐ意志を慮ってください。



地図やイラスト、写真を多用し読みやすく

今回制作した「50年史」は2年前から専任スタッフを置き、取材・編集作業を進め、高校大学の50年の歴史を発掘してきました。コンセプトのひとつにはビジュアル化を掲げ、地図やイラスト、写真を多用、余白の活用などデザイン面や色使いで、より読みやすさを工夫しています。

内容は4編24章からなり、冒頭に年表を配置する構成にしています。第1～3編は法人、大学、高校のあゆみと展望はじめ、大学・高校の現況も詳しく記述、第4編では法人組織の変遷をまとめています。特に現在のキャンパス・校舎をカラー写真50枚でつづる第1編の「工大五〇景」は、学生や生徒が学ぶ校舎、教室などの四季の姿を撮影しています。写真はあえて説明書きは付けず、写真で読み手の記憶や思い出を探す手段にしています。

元教員、卒業生からの多数の寄稿も、ほろ苦い学生時代を懐かしむコラムとして収録しました。巻末の資料編は72ページ、大学や高校の学則、歴代役職員、授業カリキュラムなど、文字サイズを小さくして掲載、記録として残しています。

50年史 主な内容

- 学校法人東北工業大学50年史創刊のことば
編集委員長 **今野 弘**
- 学校法人東北工業大学50年史発刊に当たって
理事長 **岩崎 俊一**
- 学校法人東北工業大学50年史発刊に際して
学長 **沢田 康次**
- 1世紀の歴史への折り返し点に立って
校長 **久力 誠**

第1編 学校法人東北工業大学のあゆみと展望

- 第1章 学校法人東北工業大学の50年
- 第2章 学校法人東北工業大学・東北工業大学・東北工業大学高等学校
- 第3章 総論：次なる時代へ向けて

■ 工大五〇景

第2編 東北工業大学のあゆみと発展

- 第1章 東北工業大学のあゆみ
- 第2章 工学部
- 第3章 ライフデザイン学部
- 第4章 共通教育センター
- 第5章 大学院と研究環境
- 第6章 附属施設
- 第7章 部制と大学事務組織
- 第8章 学友会と学生の活動
- 第9章 東北工業大学同窓会・後援会

第3編 東北工業大学高等学校のあゆみと展望

- 第1章 教育方針
- 第2章 学校生活
- 第3章 各科のあゆみ
- 第4章 施設設備
- 第5章 生徒会のあゆみ
- 第6章 協学会・彩翠会・後援会
- 第7章 これからの工大高

第4編 法人組織と運営

- 第1章 法人組織の変遷
- 第2章 教育政策の変遷と本学の対応
- 第3章 施設設備の拡充と整備
- 第4章 福利厚生
- 第5章 関連組織との関係

■ 教職員組合との50年



家族連れ、吹奏楽や合唱などを楽しむ

「秋の八木山フェスタ2010」が、今年も文化の日の11月3日に行われました。

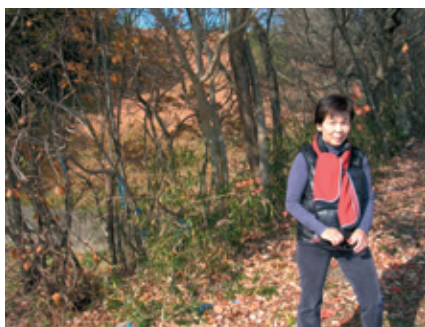
フェスタは東北工業大学、仙台市八木山動物公園、八木山ベニランドの3者が連携、地域の魅力を発信しようと開催しているイベントです。今年で5回目の開催です。

この日は、今年から始まった「東北文化の日」。東北の数多くの文化施設が無料開放され、動物公園、ベニランドも入場無料となったため小さな子どもを連れた家族の入場者が多かったようです。

大学のイベントはトーテックフォーラムでの吹奏楽や合唱、高校生のダンスを中心に、学生有志による「おかしの家づくり」や「電脳からくりロボット」、地域の人のレザークラフト、ペーパークラフトなどを家族連れや子どもたちが楽しみました。

なかでも、東北工大や東北工大高校の吹奏楽部の演奏や全国大会でも評価を受けている泉シンフォニックウィンドの演奏には大きな拍手が贈られ、秋のひとつきを音楽で楽しむ人の姿が目立ちました。

住民、園児から「大学、ありがとう」



長町キャンパスと共に

にたない えつこ
似内 悦子(太白区)

緑の楽校受講二年目。毎回膨大な資料を目にすると、「難しそう」と思います。しかし、講義が始まると内容の奥深さに吸い込まれてしまいます。

長町キャンパス。このアカデミックな場が身近にあることで私の日々のくらしは、何と豊かになっていることでしょう。自然の森の四季は、折々の恵を与えてくれま

す。植物や、森を巡る風の音や色、匂いや光などに五感を刺激されます。そんな疎林を通り抜け、市民に開放されている大学の図書館に立ち寄ります。興味深い本がたくさん並びます。勉強しようと思えば際限がありません。宝物が山ほどあると思うと気持ちもわくわくしてきます。

学生や教職員のみなさんから教えられることも多々あります。

例えば、もの作り。その過程を見せてもらい学んだことは、私の手仕事にも役立っています。

卒業制作展は毎年の楽しみです。見事な出来栄の作品の数々を見て、学生の方々が卒業した後も、学んだことを決して無駄にしないでほしいと願っています。閉塞感の続く中、自分が置かれた環境のもとで、工夫や努力を重ね、健康で心豊かな毎日を過ごせています。開かれた長町キャンパスには、心から感謝しております。



地元幼稚園との交流

日ごろ長町キャンパスを通行しているお礼として、今年も向山幼稚園の園児が自分たちが収穫した収穫祭の野菜や果物を長町キャンパスに届けてくれました。6月には「花の日拝礼」の花束、10月には野菜を届けに訪れる園児達のにぎやかな笑いと歌声がキャンパスに響き、学生や教職員の顔から思わず笑顔がこぼれました。

トピックス



第4回 東北の建築を描く展

東北に残る歴史的な建築物や町並みなどをテーマにした「第4回東北の建築を描く展」が、10月29日から11月3日まで、せんだいメディアテークを会場に開催されました。今年は全国から471作品の応募があり、審査の結果、入賞は39作品、また206作品が入選となりました。10月30日に表彰式が行われ、沢田康次学長が入賞者一人ひとりに賞状と賞金などを授与しました。今回、遠く香川県三豊市から出席された入賞者もあり、本公募展も全国規模になりつつあることを実感しています。



「第2回むつデジタル映像フェスティバル」で むつ市長賞

東北でデジタル映像クリエイターを目指す学生を対象にした「第2回むつデジタル映像フェスティバル」で、デザイン工学科・篠原良太研究室4年生チームがグランプリの市長賞を受賞しました。

作品は、3DCGとアナログイメージをミックスしたショートアニメーション「Sewing Kit」です。審査員からは「小さな子供たちがどんな感想を言ってくれるか楽しみな作品」とコメントされています。

受賞作品は研究室ウェブサイト(<http://www.shinolab.com>)でご覧ください。

フェスティバルは、若い映像作家の育成と作品発表の場を提供しようと昨年設けられ、コンピュータグラフィックスやアニメなどパソコンで編集した映像作品を募集。本学勢は2年連続して最高賞を獲得、高いレベルの評価を得ています。



「授業中に地震」の想定で訓練

授業中に地震が発生したとの想定で、11月5日、全学で防災訓練が行われました。

想定は4講時の授業中に地震が発生、学生教職員が定められた方法、経路で避難するというもの。通常の授業時間を割いての訓練で、発生想定時に八木山、長町両キャンパスにいた教職員、学生約1000人が参加しました。

緊急地震速報の知らせがキャンパスに鳴り響き、教室や研究室で授業中の学生が、安全を確認しながら教員の指示を受け整然と建物の外へ避難。指定された場所に安全に移動するまでを、実際に近い状態で体験しました。

訓練の最後には消火器を使用した消火訓練も行い、防災の意識を高めました。

緊急地震速報はキャンパスはもちろん近隣の住民にも聞こえます。このため、町内会を通じて近隣地域住民にも避難訓練実施を事前にお知らせしました。



デザインウィーク in せんだい2010

12月10日(金)～15日(水) / せんだいメディアテーク

今回で7回目を迎える「デザインウィーク in せんだい」は仙台を中心とする東北のデザイン団体が集結し、ユーザー視点のデザイン啓蒙活動を行うイベントです。クリエイティブデザイン学科では、宮城県にある唯一のデザイン系学科を持つ大学として、学科ブースを出展しました。例年のパネル展示から、今年は大胆にパンフレットのオレンジをキーカラーに空間を演出し、来場者にも好評でした。

PROFILE

安全安心生活デザイン学科

すわ まさたか
諏訪 雅貴 講師

安全安心生活デザイン学科

いしかわ よしみ
石川 善美 教授

紹介

安全で安心な生活は心身の健康から

諏訪雅貴先生は、東京生まれの茨城は古河育ち。1999年に筑波大学で博士(体育科学)の学位を取得した後、九州大学でポスドク(博士研究員)として研鑽を重ね、2008年、本学に着任しました。先生の研究テーマは、「筋肉の生化学・組織化学に関する研究」と聞きましたが、分かりやすく言うと、長寿や病気予防における運動の効果を明らかにすることを目的とした研究だそうです。学科では心身の安全安心コースを担当。まさにその担当にうってつけの先生であると言えます。毎日夜遅くまで灯りのついている先生の部屋を見るにつけ、健康に留意して、今後の学科の教育研究をますます発展させていって欲しいと願っているところです。



トピックス

硬式野球部OB会から
横断幕が寄贈

硬式野球部に横断幕とのぼり(5本)が硬式野球部OB会より寄贈されました。

春・秋に行われる仙台六大学野球リーグ戦にかかげ、これを励みに、上位入賞を目指します。学生・教職員の皆様もぜひ球場に足を運び、仙台六大学野球を盛り上げていただければ幸いです。

また、この横断幕は野球部に限らず、幅広く使用してほしいというOB会の意向もあり、クラブなどへの貸出しもいたします。希望するクラブ・団体がありましたら、学生課まで問い合わせください。

手洗い・うがい
インフルエンザ予防東根工業高校が
八木山キャンパスで出前授業

出前授業はいつもは高校へ教員が出かけ、授業を行います。高校生が本学キャンパスを見学しながら受ける形の出前授業が11月11日、八木山キャンパスで行われました。

この授業を受けたのは山形県立東根工業高校の1年生約160人、バス4台を連ねて来学しました。同高校は機械システム、総合技術(自動車・デザイン専攻)、電子システム、生活クリエイトの4学科、生徒数460人(平成22年4月)です。モンゴルやバン格拉デッシュなど途上国の学校を生徒が現地訪問、自分たちで製作した太陽電池パネルを設置する活動でも知られています。

授業は時間こそ短いです、教室も、授業を担当する先生も全く本学学生と同じです。

知能エレクトロニクス学科・大羽克彦教授の「光を電気に、電気を光に」やクリエイティブデザイン学科・梅田弘樹准教授の「デザインって何?」など4教員の1時間授業を真剣な表情で受けました。



AED講習会

学生を対象にしたAED講習会がトーテックフォーラムで11月29日(月)に開かれました。太白区消防署救命指導員から、AEDの使用法や心肺蘇生法の指導を受け、参加した学生は熱心に取り組んでいました。

AED
設置場所

八木山キャンパス

1号館1F tohtech LOUNGE内
6号館4F 階段前

長町キャンパス

3号館1F 保健室前
体育館玄関ホール前

年度末の主な行事日程

1月

- 25日(火)・26日(水) 後期補講日
- 27日(木)～2月2日(水) 後期定期試験

2月

- 2日(水)・3日(木) 進路指導集会/就職企業説明会/就職企業懇談会

- 4日(金)～6日(日) 一般入試(A日程)
- 9日(水)・10日(木) リーダーズキャンプ
- 14日(月) 後期試験成績発表 追・再試験時間割発表
- 18日(金)～23日(水) 後期追・再試験期間

3月

- 初旬 公務員・民間就職試験対策講座(2～3年生)
- 1日(火) 大学院博士(前期)課程(2期) 博士(後期)課程入試
- 4日(金) 一般入試(B日程)、社会人特別・外国人留学生特別入学試験(2期)

- 10日(木) 卒業生発表
- 18日(金) 学位記授与式
- 25日(金) 進級者発表